

今月のみことば 2026年6月

…キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
また葬られたこと、また聖書に書いてある通りに、三日目によみがえられた…

(コリント人への手紙 第一 15章 3, 4節抜粋)

イエス・キリストは復活したのか

心地良い春の日差しが続いていましたが、厳しい夏の日差しを感じさせる日々がジワジワと増えていっています。皆様の日々の生活、体調が支えられますように。

さて、本日は「イエス・キリストが復活したのか」というテーマについてご一緒に考えてみたいと思います。現代の歴史学者は、イエスという人物が1世紀前半に実在し、ピラトのもとで十字架刑に処されたことは、極めて信憑性が高い歴史的事実とみなしています。それは、キリスト教に対して中立、または批判的な同時代の資料にもイエスの処刑に関する内容が記載されているからです。



一方でイエスが、聖書に書かれている通り、奇跡を行い、十字架刑で処刑され、その後 復活したのかという超自然的な出来事については、歴史的事実として認定することはできていません。それは歴史学の実証方法の限界だからです。しかし、面白いことに歴史家たちは以下のことを歴史的事実として認めています。

1. イエスの弟子たちが変化したこと

イエスの死後、絶望していた弟子たちが「復活したイエスに出会った」と確信し、自分の命をかけて宣教を始めるほどに劇的に変化したこと。

2. イエス・キリストを救い主と信じるクリスチャンが世界中に広がっていったこと

紀元 30 年頃に数百人だったクリスチャンは、ローマ帝国の国教に認定される紀元 380年には世界中に広まって数千万人まで増えました。世界人口が2～3億人程度と言われていた当時においてクリスチャンの数は急激に広がっていました。

クリスチャン人口が増え広がった要因は色々分析できますが、起点となった弟子たちの変化、すなわち師匠であるイエスが十字架刑によって処刑されてしまい、怯えていた彼らが、一転して自分のいのちをも捨てる覚悟で「イエスが復活した」と宣教し始めた事実が、どうして起きたのかを歴史学者は明言できていません。

私は、聖書に書かれている通り、弟子たちが復活したイエスに出会い、体験したことを宣べ伝えたのだと信じています。皆様はどう思われますか。(〇)